

ブエノスアイレス日本人学校（その9 絆）

木村敏夫

2011年は日本へ多くの激励が寄せられました。アルゼンチンからもそうでした。

<折り鶴と短冊>

3月下旬、東日本大震災から2週間後久しぶりのブエノスアイレス、私が日本人と分かると多くの見知らぬ人たちからも知人からも、私の家族や知り合いの安否を心配され、安全と早期の復興を願う温かな言葉を何度となく掛けられました。サッカー南米選手権 Copa America 2011 アルゼンチン大会前の主催者説明会出席で訪垂した私は、この心を日本の人たちに伝えたいと **ARGENTINA Y JAPAON UN SOLO CORAZON**（アルゼンチンと日本、ひとつの心で）をテーマにし和の象徴折り鶴をアルゼンチンの人たちに折ってもらうことを考え付きました。また短冊に垂国の人たちの心をしたためてもらったメッセージとともに仙台七夕まつりで披露することとなりました。

当初は千羽鶴もおぼつかないかも（？）と、セイボ会（在垂日本婦人会）や商工会議所会員の方々のお手もお借りし数百枚を折ってもらいながら、ショッピングモール5か所でスタンドを構え、日系のプロモーターを配置し、即席で習った折り鶴を折り、短冊にメッセージを書いてもらいました。また現地校5校へ出向き、日本文化の紹介とともにメッセージと折り鶴作成を子供たちが積極的に協力してくれたことを本当に嬉しく感じました。



ところが、想定外(?)と言うと叱られますが、アルゼンチンの皆さんはとても器用で且つ意に感じてくれ、ショッピングモールと学校で2週間で非常に多くの折り鶴（1万3千5百羽）と短冊（1780メッセージ）ができあがりしました。

<絆>

さて、これをシンプルに日本に送るのだけではなく更なる日垂友好に繋がればと、日垂の子供たちの交流イベントをブエノスアイレス日本人学校で催しました。

折り鶴と短冊を垂国の子供たちから日本の子供たちに託す伝達式です。その中で、子供たちのサッカー日垂対抗戦も行いました。日本フル代表がCopa Americaに招待されたものの、大震災後のJリーグの試合再開が見えない状況下では参加を取り止めざるを得なくなり、その代替で子供たちのプレーをと考えました。

2011年6月29日に、当時の石田大使、山崎参事官、山口校長先生、鈴木先生、教職員のみなさん、子どもたち、父兄の方々、皆さんからご協力、応援され心温まるイベントになりました。伝達式では日本人学校の児童生徒さんたちが用意してくれた大日章旗に綴った「絆」と皆さんのメッセージも私に託されました。この「絆」日章旗は、後述するJリーグヴェガルタ仙台と

柏レイソルの試合前セレモニーで、仙台ユアテックスタジアムのピッチに大きく掲げられました。



伝達式の模様



熱戦！子供たちの日亜対抗戦

NHK もこのイベントに注目し、Ezeiza 空港に到着したばかりの Copa America 取材クルーが日本人学校に派遣されました。この模様は7月1日の Biz スポで3分間放映され、伝達式や熱戦の様子が映し出され、みなさんの良い思い出にもなりました。また地元メディアも、新聞、ラジオ、テレビ、インターネットで多数紹介し、テレビニュースでは30分の番組中、折り鶴・短冊イベントそのものや10分ほどの私のインタビューが放映されたり、ラジオのライブに出演したりと、私個人としてもアルゼンチンの人たちとの絆を大いに深める機会となりました。

<海を渡る>

その数か月前の計画段階で、日本サッカー協会（JFA）田嶋幸三会長（当時は副会長）とブエノスアイレスで食事をする機会があり「折り鶴、短冊」を仙台七夕まつりで披露する計画をお話ししました。すると即座にふたつのお願いをされました。「福島第一原発から20キロにあり、多くの復興作業員の方々の最前線基地になっているJヴィレッジにも折り鶴を分けて貰えないか？それから仙台ユアテックスタジアムで贈呈式を行いましょう」でした。思わぬ嬉しいお話です。

7月31日Jヴィレッジでは防護服姿で多くの作業員の方々が帰ってくる中での贈呈式を行った後、仙台入りとなりました。

上野からは当協会寺本安久常務理事に同行して頂きました。寺本さんには当時のラウル・デジャン大使ご夫妻に仙台に来て頂きスタジアムでの贈呈式にご出席のアレンジをお願いしていました。予定ではCopa America 決勝翌日にブエノスアイレスから羽田に向かい元麻布の大使館で、私がそれまでの顛末を大使に事前説明するはずでしたが、チリのプジュウエ火山噴火の影響

響でフライトキャンセルのため羽田着が一日遅れ、大使への説明ができていませんでした。仙台のホテルで初対面の私に、どうして贈呈式なのかと怪訝な様子でしたが、私の気持ちを素直に説明し始めると、ものの30秒も経たないうちに、テーブルをぼんと叩いて一言だけ、「**Muy Argentino!**」（これぞアルゼンチン気質!）と感動され全てをご理解頂きました。スタジアムでの試合前セレモニーでは、大使と私から当時の三浦秀一宮城県副知事、稲葉信義仙台市副市長並びに白幡洋一ベガルタ仙台社長に無事託すことができました。その直後にピッチで大使が耳打ちします。「聞こえるだろう、この歓声!」スタジアムの一番向こうから始まり次第にこちらへ向かって「**ARGENTINA! ARGENTINA!**」の大合唱が沸き起こりました。贈呈式が終わり、ピッチからスタンドへ向かう階段の手前で大使が「**Motivado**」（背中を押されたよ）と囁かれた時には、やり切ったという感情とやって良かったという思いで充実感を感じました。



折り鶴後方に絆日章旗：デジャン大使と筆者(右)



ユアテックスタジアムの電光掲示

その後 208 万人が訪れた仙台七夕まつりへの出展を 8 月 6 日に無事終わりました。

ここまで来るのに大変多くの人たちの献身的ご協力がありました。在亜日本大使館、在亜日本商工会議所、セイボ会、ブエノスアイレス日本人学校、多くの日本に所縁のあるアルゼンチン在住の方々、そして初めての折り鶴に挑戦してくれた沢山のアルゼンチンの人たち、、、。本当にありがとうございました。

そして在亜 50 年、トーシングループ会長で JFA 国際委員だった故北山朝徳氏には、最初から最後までお世話になりっぱなしです。大震災直後の 3 月下旬の訪亜中は毎日のようにお邪魔して、「アルゼンチンの人たちの心を届けたいんだけど、いいアイデアが出てこないんですよ」と悩み続ける私の相談に乗ってもらいました。最終日に、「浮かびました。折り鶴を折ってもらうのはどうでしょう」と話すと、「それはいい! それならば、仙台七夕まつりに持って行きましょうよ、短冊にメッセージを書いてもらいましょうよ」と即座のアドバイスでイベント骨子の決定です。その後の訪亜中には、「今から Ezeiza 空港に田嶋さん（現 JFA 会長）を迎えに行くから、一緒に行きましょう」と引き合わせてくれたのも北山さんでした。おかげで、J ヴィレージ、仙台ユアテックスタジアムでの贈呈式となりました。日本人学校での贈呈式と子供たちの日亜対抗戦、これも北山さんのアドバイスでした。私の「折り鶴」というひと言に多くの衣を着せてくれ、たくさんの感動をいただけたのは、北山さんのおかげです。いくら感謝しても感謝しきれません。

くしくも先日 2022 年 7 月 25 日に JFA から発表があり、北山朝徳氏がイビチャ・オシム氏とともに“日本サッカー殿堂”入りをされるとの吉報がありました。J リーグ初代得点王の Ramon Diaz を送り込んだのは北山さんであり、アルゼンチン代表など数々の強豪チームの日本招聘や、2002 年のワールドカップ日本招致活動において南米サッカー連盟（CONMEBOL）が終始変わることなく日本を支持してくれた背景には、同氏と同連盟との強い絆がありました。

今回のブエノスアイレス日本人学校の連載は、これを持って一旦閉じます。たくさんの方々のご協力で、そうだったのか！と多くの話題をご提供いただきました。執筆者の皆さま本当にありがとうございました。

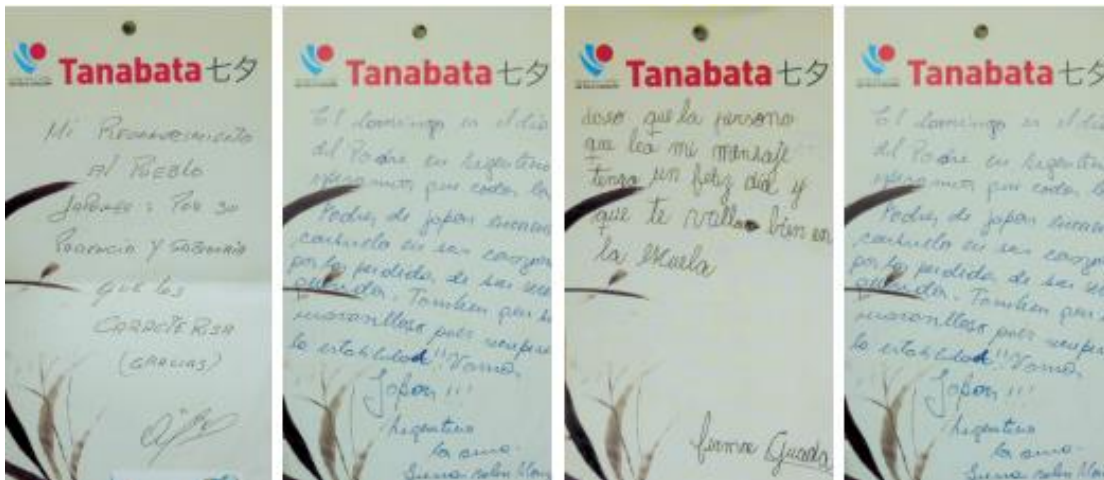
(きむらとしお：当協会常務理事)



一人で50羽以上折ってくれた女の子



COPA America 開会式：震災のため不参加の日本との連帯を示す日章旗を持つ日系の若者たちがスタジアムを一周し温かい拍手が沸き上がる



短冊メッセージ



結局出場ならなかったものの、その高原野菜の美味しさ故に日本代表合宿地と決まっていたフワイ州、そのふたつの小学校児童100人をCopa Americaに招待：Barionuevo州知事(当時)の推薦で、Olaroz(チリ国境標高4500m)とLa Quiaca(ボリビア国境3500m)の小学生たちを招待しました。車で一日かけ州都San Salvador de Jujuyに到着し試合を観戦してもらいました。多くの子供たちは、初めての州都訪問でした。いい修学旅行にもなったことと思います。